

資料4

評価項目	4 予算の配分と研究施設・設備に関すること
当センターの状況 (概要)	<p>(1) 業務内容に関する経常的経費（施設管理費等）と政策的経費（研究費等）の状況</p> <p>予算の推移について、施設管理費にあたる試験研究以外の業務費は、検査機器の更新に係る予算は備品更新計画（10年）に従い概ね所要額が計上されているが、運営経費は3年連続で減額となっている。県単試験研究費についても3年連続で減額となっている。</p> <p>なお、毎年、研究費の増額（要求）を模索しているが、震災復興途上であることに加え、いわて国体の開催を控えて県財政がこれまで以上に逼迫している状況にあつて、依然として県単試験研究費の確保は難しい状況にある。</p> <p>(2) 研究に必要な施設・設備の確保</p> <p>研究に必要な施設・設備の確保について、平成20年度及び平成22年度の国の経済対策による検査機器等の大幅な更新を行って以降は、備品更新計画（10年）に基づいた検査機器等の更新を行っている。</p>
評価結果/評価の視点	<p>○総合評価 A（3人）・B（3人）・C（0人）</p> <p>○評価コメント</p> <p>(1) 業務内容に関する経常的経費（施設管理費等）と政策的経費（研究費等）の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経常的な経費は適切に配分されているが、政策的経費については獲得方法も含め改善を要する。 ・妥当である。 ・県単試験研究費の確保が難しい中で、外部資金を他研究機関との共同研究推進により増やす必要がある。 ・予算状況が厳しい中、適切な経費運用により研究事業を行っていると評価する。 <p>(2) 研究に必要な施設・設備の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な機器の更新、導入が適切に行われている。 ・設備については、概ね適切に確保されている。 ・財政状況厳しく設備導入もままならない状況下、近隣の研究機関との相互機器利用なども検討してはどうか。 ・最新の分析器等の配備がなされており妥当である。 ・予算状況が厳しい中、適切な機器・設備の確保が行なわれていると評価する。
センターの対応方針	<p>研究費については、大学等との連携・共同研究などにより、より一層、外部資金の獲得に努めていきます。</p> <p>施設・設備の確保については、今後も計画的に予算要求、更新を図っていきます。なお、研究用機器を購入する場合は、他の試験研究機関の保有状況や共同利用の可能性なども含め、必要性を検討していきます。</p>